

反畑 誠一（たんばた・せいいち）先生

音楽評論家 立命館大学客員教授

音楽評論家。

立命館大学産業社会学部客員教授（本講座の他、「企画研究」・専門特殊講義 SK「ポピュラー音楽論」を担当）。

一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 特別顧問。

日本レコード大賞 常任実行委員。毎日芸術賞推薦委員。

新聞コラム「ヒットの周辺」（京都新聞など 26 紙掲載）

など多数執筆中。

FMラジオ「反畑誠一のTHE BIGTIME」

（全国コミュニティFM30 局ネット）のパーソナリティ、

テレビ情報番組「うたなび！」

（京都放送など 12局ネット）のナビゲーターを務める。

アジア各国の音楽文化・産業の研究・分析も手掛ける。



《講義概要》

開講オリエンテーションは、立命館大学産業社会学部の長澤克重副学部長の挨拶から始まった。副学部長は、本講座開講のために寄附を賜った3団体について紹介。また、この講座は第一線でご活躍中の素晴らしいゲスト講師のご講義を聴くことのできる貴重な機会であると言及し、質問タイムやコミュニケーションペーパーも積極的に活用して、キャリア形成等に役立てて欲しいと学生を激励した。

その後、本講座のコーディネーターであり音楽評論家でもある立命館大学客員教授の反畑誠一氏が、講座の歴史や概要、学習目標について説明し、寄附団体の事業内容についても再度詳しく紹介した。

続いて、本講座の学習の基礎として、エンタテインメントの定義やコンテンツ産業の概念を解説した後、デジタル技術の進歩により興った情報革命について、産業革命の観点から分析し、分かりやすく説明した。また、マーシャル・マクルーハンのメディア論を取り上げ、マクルーハンの著書はメディアに翻弄されずに主体性を確立するためのヒントになると紹介した。加えて、著作権等の基本をよく学習し、理解するよう言及した。

最後に、次回からの講義テーマや豪華な講師陣を紹介するとともに、各講義の学習のポイントを伝え、意欲的に学習するよう強く促した。

《受講生の感想》

●以前からメディアに興味があり、立命館ではこの講座のような講義があるということを知って、この学部を選びました。こんなに良い機会はめったにないことだと思うので、しっかりと聞いて、事前質問や事後質問の機会なども積極的に利用していきたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●今回で3年目の受講になりますが、過去2年間で学んだことをさらに自分の知識として確実なものに出来るよう、一生懸命講義を聴いていきたいと考えています。特に今年は音楽関連のお話をいただく機会が多い気がするので、音楽産業の「今」をしっかりと理解できるように頑張りたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●今回でこの講座を受講するのは3回目ですが、先生方のお話は何度聞いても刺激になります。この講義では著作権問題が多く取り上げられるので、著作権に関しての知識をもっと身につけたいと思います。

立命館大学・映像学部・3回生

●毎回のゲストには音楽業界の最前線でご活躍されている方ばかりなので、1回1回の授業を大切にしていきたいと思います。遠方からわざわざ来てくださる先生方の講義を聴けるこんなチャンスはなかなかありません。チャンスは無駄にせず、疑問や聴きたいことがあったら積極的に聴きたいと思っています。

立命館大学・産業社会学部・4回生

●コンテンツが電子化・デジタル化していく近年、既存のビジネスモデル、法律が通用しなくなっていますが、これからコンテンツビジネスがどのようなかたちで進化、変化していくのか、非常に興味深く感じました。

立命館大学・映像学部・2回生

●各国のコンテンツ産業概念の違いがそのまま戦略の違いになっていると感じた。それを理解するためには各国の文化コンテンツの歴史を理解する必要があると思いました。

立命館大学・法学部・4回生

●「4大巨人の存在」のお話しがとても印象に残りました。また、マーシャル・マクルーハンの「メディアはマッサージである。」という考え方はとても興味深かったです。これからの1回1回の授業を真剣に聞いて、情報を吸収したいと思います。滅多にお話しを聞くことができない先生方にお会いできるので、この貴重な機会を無駄にしないようにしたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●マクルーハンの「メディアこそがメッセージである」という言葉がとても心に残りました。この講義を受けていく中で、少しでもこの言葉の意味が理解できればと思います。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●現代のコンテンツ産業を学ぶ上で、デジタル化・ネット化は最重要テーマであると思います。多様化するデジタル産業、音楽産業を広範囲に学ぶには、この講座のように様々な方のお話を聞いて、自分なりに解釈し、理解していくことが有効であると思います。前期・後期の講座を受講するので、自分なりに考えて一定の意見を主張できるようになればと思います。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●エンタテインメントとはよく聞く言葉ですが、「多くの人を楽しませることを主題とする文化的活動の一つ」という定義があることは知らなかった。また、「人々の感情に働きかけ何らかの感動を起こさせる」というのがとても興味深かったです。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●今回のオリエンテーションを通して自分の知らないことを知ることができました。それは、一つの楽曲を作ることに於いて「著作権の管理」「著作の開発」「原盤制作」という3本の柱が基本となっていることです。その中でも著作権を守るということは非常に重要視されており、実演家の権利と利益を守る団体(CPRA)まで存在することを知り、驚きました。

立命館大学・産業社会学部・1回生